



支部会ニュースNo.39  
2023年8月1日発行



北里大学同窓会栃木  
栃木県支部ホームページQRコードです。  
スマートフォンでのアクセスに利用下さい。

## Relay for Life JAPAN 2023 in Tochigi 一緒に歩きましょう。

北里大学同窓会栃木県支部  
北里大学同窓会栃木県支部の皆様

ここ3年、Covid-19感染症拡大予防の為に変則開催が続いていましたRelay for life JAPAN in Tochigiですが、2023年度はCovid-19流行前のように以下の要領で開催されます。

名称：リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023  
とちぎ

趣旨：1 がん体験者（サバイバー）・家族・支援者・地域住民が連帯し、共に歩き、共に語らう事で明日を生きる勇気と希望を生み出す。

2 参加者・地域住民・企業・各種団体等に、がんに関する正しい知識の啓発を図り、バザーや募金などを通じて「がん征圧活動」に貢献する。



開催日時：2023年9月2日正午から翌3日正午まで  
開催場所：壬生町総合公園陸上競技場

主催：公益財団法人日本対がん協会  
リレー・フォー・ライフとちぎ実行委員会  
後援：厚生労働省、栃木県、壬生町、宇都宮市  
その他多数（予定）

特別協力：アメリカがん協会

詳細内容：リレー・ウォーク、サバイバーズ・ラップ、  
ルミナリエ、ステージ、バザー、講演・対談等

「生命科学の総合大学」を標榜している北里大学の同窓会栃木県支部では、本イベントの趣旨に賛同し、栃木県で開催されるRelay for Lifeの第一回目から参加しています。本年も勿論参加します。参加される方の参加費は支部で負担しますので、財布を持たずに来て頂いても大丈夫です。多くの方々の参加をお待ちしています。

参加出来ます方は、8月中旬に支部長までご一報ください。連絡は下記のアドレスまでメールをお願いします。

[tatabox@kitasato-u.ac.jp](mailto:tatabox@kitasato-u.ac.jp)

## 栃木県支部運営委員会報告

支部長 滝 龍雄

2023年7月2日に開催された第4回運営委員会の検討内容の要旨をお知らせします。

### ① 支部ゴルフコンペの企画

目的；中野友裕・睦月ご夫妻のお世話で、親睦を目的としたコンペを開催する。

今回の開催結果を来年以降の参考にします。

開催日；10月15日（日）

開催地；イーストウッドカントリー倶楽部  
宇都宮市冬室町 1039-3  
（コース等は未定）

組数；3組（12名）受付順

参加費；無料（ゲームフィーは自費）

景品；支部会計から準備

申込み；支部長宛に「ゴルフコンペ参加希望」とタイトルを付け、参加希望者名をメールで送る。後日、支部長より受付・開催詳細の連絡により申込み完了とする（会員以外の同行者も参加できます）。

連絡先；支部長メール・アドレス（栃木県支部 HP）

[tatabox@kitasato-u.ac.jp](mailto:tatabox@kitasato-u.ac.jp)

### ② 北里柴三郎記念館見学ツアーの開催

公開講演会・懇親会報告にある様に、懇親会の席上で、熊本県小国町にある北里柴三郎記念館の見学ツアーの開催を検討。今年度は準備期間の事もあり、無理

なので、北里英郎館長とも相談の上、来年度開催の前提で検討する。埼玉県支部の広瀬支部長と共同ツアーの開催について検討するが、埼玉県支部は今年、堀野支部長から広瀬支部長に交代したばかりで、まだ運営に慣れていない。埼玉支部会員は個人的に参加申し込みをさせて欲しいとの事。

北里柴三郎記念館に行くには、大分、福岡、熊本の各空港が利用可能で、大分が最も近いが、飛行機の便数等を考慮すると福岡が便利。今後の検討課題とする。宿泊の第一候補は、記念館に近い温泉等を予定。

### ③ 新年会 2024 の開催について

過去3年間、SARS-CoV-2（新型コロナウイルス感染症）の感染拡大を防止する為に開催を見送ってきたが、今年5月9日よりSARS-CoV-2感染症が5類に移行したことから、2024年は開催する前提で準備する。

世話人は岸君と福田さんをお願いします。  
詳細は支部会ニュース No.40 に掲載する。

### ④ 栃木県支部事務局の移転

予てより、済生会宇都宮病院での栃木県支部事務局の維持が諸事情から困難となり、移転先を検討していた。公開講演会等の行事も終わり、新事務局を担当してくれる田村明美さんの家業の梨園の出荷等で多忙になる時期の前に移転したいとの事で、さる7月22日、支部長立会いの下、済生会宇都宮病院の和貝和子さんと田村明美さんの間で事務局の移転・引継ぎが行われた。

新事務局；  
329-0415 栃木県下野市川中子 34-1  
田村梨園

田村 明美 様 (1984HI)

田村さんは、学生時代ラグビー部のマネージャーとして活躍されました。又、大学卒業後は自治医科大学医学部に勤務し、外科系や産婦人科等で研究補助員（秘書）をされましたので、個人的にも田村さんをご存知の方も多いと思います。今後とも宜しくお願い致します。

なお、事務局の移転に伴い、現在の銀行口座の名義（塚原訓子）の変更が必要か、新事務局の田村さんが最寄りの栃木銀行で確認する。

また、事務局の変更に関連し、今後の運営委員会は宇都宮駅近くの貸し会議室（2時間 2,000円程度）で開催し、近くの駐車場料金も高いために、交通費等の補助として出席者には1,000円を支部会計より支出する。

これからの運営委員会に、委員ではないが医学部の石原先生と藤田先生に可能なら参加してもらう。

北里大学同窓会栃木県支部及び新事務局・田村明美さんの活動の応援を宜しくお願いします。

## 北里柴三郎記念室特別展開催

北里柴三郎記念室

北里大学同窓会栃木県支部の皆様、  
北里大学白金キャンパスにあります北里柴三郎記念室では、下記の特別展を開催しています。

1892 私立北里医科大学創立  
1899 国立伝染病研究所 (旧陸軍省衛生部)  
2023 北里研究所創立110周年・北里大学創立60周年記念  
北里柴三郎博士特別展  
**未来への挑戦、原点は北里柴三郎**  
1891 北里柴三郎の北里博士肖像  
新千円札の肖像となる世界に誇れる医学者  
近代日本医学の礎を築く  
北里博士の活動基礎となった『医道論』  
延威を振るう伝染病に対して「病を未来に防ぐ」という予防医学を提唱。健康に対する自己管理と食糧改革そして教育の重要性が書かれている。  
北里博士は「学術と生活との密着を確するは学者の任なり」と位置づけ研究成果の実践応用を基本方針とした。

2023 6/13(火) ▶ 10/31(火)  
10:00~17:00 開館 入場無料  
土・日・祝 休館 なお、8/14(日)~8/18(金)は夏期休暇のため休館となります

北里柴三郎記念館 1階 展示室

〒106-8641 東京都港区白金5丁目9番1号  
TEL: 03-5791-6103 FAX: 03-5791-6274  
E-mail: k.kit@nri.ac.jp  
URL: https://www.kitasaof.ac.jp/kitsato-shitsumu/

生憎、平日のみの開催ですが、上京の折には足を延ばしてみてください。入場料は無料です。

### 【特別展示見どころ】

- ・タッチパネルシステムによる『医道論』直筆原稿の全文公開
- ・新紙幣肖像に採用された北里博士の写真展示
- ・北里博士を写した動画映像の上映 -初公開-
- ・「微細な世界」を当時の顕微鏡で見る実物体験

又、8月1日から10月6日まで「110年前の感染症予防ポスターを見てみよう」と題した展示も一回展示室で同時に行われます。

更にミュージアムトークが8月5日（土）と8月26日（土）に記念館2階の北里白金サロンで開催されます。

特別講演 13:00~14:30 北里の決意「感染症から国民を守って見せる」 講師；森 孝之 先生  
展示解説 14:40~15:00 衛生及び消毒法の指導と普及 解説者：遠藤 瑠海 先生

こちらは申込不要ですが、先着30名限りです。お出掛けの前に、北里柴三郎記念室のホーム・ページでご確認ください。



## 北里大学同窓会栃木県支部公開講演会 「新1,000円札の顔 北里柴三郎の人となり」 及び懇親会を開催して

北里大学同窓会栃木県支部  
支部長 滝 龍雄

去る6月11日に、地元の下野新聞社、北里大学同窓会、北里大学医学部同窓会栃木支部の後援を頂き、前北里大学医療衛生学部長で、現在は熊本県小国町にある北里柴三郎記念館館長の北里英郎先生を宇都宮にお招きして2024年から発行予定の「新1,000円札の顔 北里柴三郎の人となり」と題する公開講演会をホテルニューイタヤにおいて開催した。(講演中の北里英郎先生)

今回の公開講演会はSARS-CoV-2感染症が5類感染症になり、日常生活も少しずつ平常に戻る中での開催であったが、栃木県は慎重な人たちが多く、残念ながら県民の参加は予定より少なかったが、会場には50名が集まり、webの参加者も20名と、計70名が北里先生のご講演に耳を傾けた。北里英郎先生は北里柴三郎博士(以下、柴三郎)の曾孫に当たり、家族から見た柴三郎について興味深く話された。



### 【講演要旨】

柴三郎は幼い頃から体がたいへん丈夫で、ほとんど病気にかかったことがなく、しかも並はずれた力持ちで、人一倍の負けず嫌い。武術を好み、学問は二の次だったので、母の教育方針に従い、親戚にあたる橋本龍雲家に預けられた。柴三郎は毎日縁側を拭くよう言いつけられたが、負けず嫌いな柴三郎が、これでもか、と磨き上げるうちに、縁側がだんだん光ってきた。嬉しくなった柴三郎は、毎日、勉強が終わるとすぐに、進んで雑巾がけ

をするようになり、ピカピカになった縁側は、橋本家の家宝にされ現在は北里柴三郎記念館に保存されている。

18歳で進学した熊本医学学校ではマンズフェルトに医学の素晴らしさを教わり、東大医学に進むことを決めると共に、将来的には当時の医学研究の最先端であったドイツへの留学も進められた。東大医学部では学生を率いて弁論大会などを開催したが、「私が志すは大衆を教育し健康にすることである。これは、大事業であるが一生涯をかけて取り組めば出来ないこともあるまい。世間的な立身出世などいちいち気にすることはやめ、この難事業にいかなる苦労ものりこえてやりぬくことこそ男兒たるものの生き甲斐ではないか。」と考え、卒業後は内務省に入り、1884年にはドイツ留学を認められた。

柴三郎はドイツで、ローベルト・コッホの所属していたベルリン大学衛生研究所で研究生生活を始め、1892年に帰国するまでの8年間で多くの業績を挙げた。その中には1889年の「破傷風菌純粋培養法」の成功し、翌1890年の破傷風菌抗毒素の発見と「血清療法」画期的な手法を開発した。1890年には血清療法をジフテリアに応用し、ベーリングと連名で「動物におけるジフテリア免疫と破傷風免疫の成立について」という論文も発表した。

1892年、欧米の一流大学や研究所からの数多くの招聘を断り帰国したが、柴三郎には研究する所がなく無為な日を過ごしていた。福澤諭吉は「この男に活躍の場を与えないのは国家の損失だ」と言って芝公園の自分の土地に私立伝染病研究所を作った。柴三郎はこの時の福澤諭吉先生の恩義に報いるため、後年、慶応大学に医学科を作り、初代医学科長として無償で奉仕した。私立衛生研究所はその後国立伝染病研究所に改組され、柴三郎は初代所長として細菌学の研究や啓蒙に励んだ。柴三郎はペスト菌の発見などの他に、赤痢菌の発見者として知られている志賀潔など多くの弟子を育てたが、伝染病研究誌が内務省から文部省(東京大学)に移管されるのを良しとせず、退職して北里研究所を創立した。そこには伝染病研究所で働いていた人たちが大挙して移って来た事は良く知られている。

柴三郎は「人を任じて疑うなかれ、疑いて人を任ずるなかれ」を座右の銘としており、多数の門下生の性格を識別しその長所が発揮できるように努め、部下の失策や怠慢に対しては直に叱責はしても、外部に対しては必ず自らその責めを負った。柴三郎は恩師のコッホが来日した時には、滞日中ずっと付き添い、ベルリンでの恩に報いた。現在白金キャンパスにある「コッホ・北里神社」のはその時に散髪したコッホの遺髪を祀ってある。

皆さんも良く知ってる「テルモ」という会社があります。現在はプラスチックの注射筒や輸液用のチューブで有名ですが、元々は正確な体温計を作るために設立されました。第一次世界大戦により外国産の体温計の輸入が途絶え、正確な国産の体温計が切望された。1921年5月に「赤線検温器株式会社」の設立趣意書が出され、柴三郎は創立総会議長として取りまとめに当たった。「テルモ」という社名は体温計・Thermometerのドイツ語読み由来している。

柴三郎は日本医師会や日本医学会の設立等にも深く関与し、日本の医学会をリードしていたが、1931年(昭和6年)6月13日、脳溢血のため東京・麻布の自宅において死去した。享年79(78歳没)であった。

柴三郎には三人の大恩人が居た。マンスフェルト(熊本医学校で医学の素晴らしさを習う、医師になること東大への進学、ドイツへの留学を助言)、コッホ(細菌学の最先端を教授、強い信頼関係)、福沢諭吉(祖国日本に恩返しをするために帰国した柴三郎が無為に過ごしているのを知り、土地や資金を提供し、伝染病研究所、結核療養所などを作った)である。

約一時間の精力的なご講演の後、フロアからの質疑応答がありました。エッと思わせるような予期せぬ難しい質問もありましたが、北里先生は冷静に鮮やかな返答をされ、「流石、柴三郎博士のお孫さんだ!!」との印象を強く、頼もしくもありました。

(熱心にご講演を聞く参加者)



本講演会には同窓会本部より支部担当岡田寛紀常務理事の他に、檀原宏文北里柴三郎記念会会長、企画担当高橋明義常務理事、高山出事務局長、埼玉県支部の広瀬隆一支部長も駆け付けて下さった。

北里大学医学部同窓会栃木支部福島一哉支部長の謝辞で無事講演会は終了した。

講演会の後、同ホテル内で懇親会を開催し、北里先生を始め24名が参加した。懇親会は岡田支部担当常務理事の挨拶で始まり、和気藹々と懇親会は進み、埼玉県支部と栃木県支部で合同の小国ツアーを計画してはどうかという提案もあり、今後、共催を検討しようという事で大いに盛り上がった。

## 「公開講演会に出席して」

北里大学同窓会  
事務局長 高山 出

同窓会栃木県支部の皆様、初めまして。同窓会事務局の高山でございます。

このたび、2023年度北里大学同窓会栃木県支部公開講演会に出席させていただく機会がありましたので、ご挨拶も兼ねてご報告申し上げます。

私は、1978年4月に当時の学校法人北里学園に入職し、旧衛生学部事務室に配属され、その後、医学部、水産学部(現 海洋生命科学部)、薬学部など各学部事務室勤務などを経て、2021年3月に教学本部の教学セン

ター事務室勤務をもって定年退職し、同年4月から北里大学同窓会事務局に勤務しております。今後とも、微力を尽くして同窓会のお役に立つよう取り組む所存でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

筆者は、同窓会事務局に入職した当初から、栃木県支部の活発な活動状況をお聞きしていましたので、今回の公開講演会(宇都宮市)に足を運んで支部の皆様と交流したいと考えておりました。そこへ運よく岡田支部委員長(常任理事)に了承いただき、出席させていただくこととなりました。宇都宮市と言えば、最初に浮かぶのは餃子の街ですが、今や人口約51万人の大都市であり、本年8月にはLRTが新規開業しますので、多方面から注目されることでしょう。



さて、前置きが長くなりましたが、当日は、北里英郎先生の講演「新1,000円札の顔 北里柴三郎の人となり」を拝聴し、筆者は思いを新たにしました。それは、北里柴三郎博士自身が偉大な人物であることは言うまでもありませんが、柴三郎博士を導き支援した多くの偉大な人々がいたからこそ柴三郎博士が偉業を達成できたことです。英郎先生によると、柴三郎博士の恩人の中でも特に三大恩人として、マンスフェルト、コッホ、福澤諭吉が挙げられるだろうということでした。これらの人々が、柴三郎博士の科学者としての重要な局面で手を差し伸べたことは間違いないでしょう。

ところで、北里大学の卒業生は学部、大学院、併設校を含め約102,600人(2023年3月31日現在)であり、学校法人北里研究所に勤務する教職員は約6,000人(2023年5月1日現在)です。これだけ多くの人々が北里柴三郎博士のもとに集い、今はそれぞれの立場で活躍されていることを思いますと、改めて柴三郎博士の偉大さに気付かされました。思えば、筆者もその一人です。柴三郎博士を始め先人に感謝し、これからも不撓不屈の精神を全うしたいとの思いを強くした貴重な一日でした。

これを機に、栃木県支部の皆様と再会できることを楽しみにしています。栃木県支部の益々の発展と皆様のご健勝を祈念いたします。ありがとうございました。







## お詫びと再掲載について

支部会ニュース No.38 に掲載しました「ブチ毛の馬（ライフ・イズ・ビューティフル号）の絵を描きました」に校正の間違ひがありました。訂正して再掲載し、岸 善明氏には心からお詫びします。

栃木県支部支部長 滝 龍雄

## ブチ毛の馬（ライフ・イズ・ビューティフル号）の絵を描きました

V4 岸 善明

コロナ禍で私が毎年出展している美術展が 2020 年、2021 年に休止となりました。90 年の歴史を誇る美術展で、休止は太平洋戦争以来の出来事でした。

やっと、2022 年に美術展の再開が決まりました。大型作品の製作は想像以上に体力を消耗しますので、高齢になる程辛いものがあります。私も高齢者、3 年ぶりの大型作品の製作は大変でしたが、何とか作品（写真）を完成させて東京に送りだしました。

2022 年に完成させた作品ですが那須トレーニングファームで開催された馬術大会で見つけた大障害馬術競技に参戦中の人馬を描きました。馬是那須トレーニングファームの社長である広田龍馬氏所有のスウェーデン産のブチ毛の馬、ライフ・イズ・ビューティフル号（以下、ビューティフル号）、騎乗者は広田氏の奥様です。2017 年の春の馬術大会でビューティフル号のブチ毛の馬体が実に美しかったので暫く見ておりました。その時の成績は特別なものではありませんでしたが、馬が気に入り絵の構想を練り始めました。ところがです。この年の秋からビューティフル号の快進撃が始まり、2018 年に大障害全日本チャンピオン、FEI ジャンピング・ワールドカップ 日本代表馬となりました。2019 年 4 月スウェーデンで開催された FEI ジャンピング・ワールドカップでは並みいる世界のエリートホース達と戦い 24 位と善戦しました。



私が展覧会の作品として描くテーマは牛と馬です。牛と馬は御存知のとおり牧場で管理されておりますが牛では共進会、馬では競技会等のイベントがあり見ること

が出来ます。私は仕事でそれらに関わっていたので、素晴らしいこれぞと思う牛や馬を見る機会がありました。その時、出来るだけ関係者と牛や馬の話をして様々な情報を聞き関係する資料等を見る機会がありました。素晴らしい牛や馬には必ず関係者、特に牧場のオーナーとのドラマがあるもので、現場での話には感動する事がよくあります。

牧場やイベントで感動する牛や馬を発見した時には写真を撮影します。その時には必ず牛や馬に近づきます。直接皮膚に触り、特有の臭いを嗅ぎます。そして、動物の絵では目の表現が大切なので必ず目を観察するようにしています。

作品の制作は牧場やイベントでの取材等を基に構図を作るところから始まります。ある程度まで描いてゆくと行き詰まる事がよくあります。この様な場合、最終の手段として再度牧場やイベントに牛や馬を見に行きます。そこでの雰囲気を感じて、出来るだけ関係者に質問し、情報をいただきます。此の活動を何回か繰り返して、取材で知った事を思い出しながら作品を仕上げております。ヒトは先入観でモノを見る傾向があるので、少しでも不安な時にはできる限り現場に戻りたいと考えております。

2021 年、ビューティフル号は 19 才（ヒトで換算すると 60 才代の後半）となり大障害の競技から撤退、2022 年には中障害競技で活躍中です。因みに、秋の栃木国体では奥様が騎乗して優勝しました。広田氏は「馬もやることがないと一気に老け込みます。常に必要とされていることを感じてもらって、少しでも長生きして欲しい。」と、話されました。馬の老い、初めて聴く言葉ですが我が身と重ねて考えてしまいました。

最後になりましたが、元大障害競技日本チャンピオンのビューティフル号がスウェーデンから輸入、那須で調教され、今でも那須で幸せな馬生を送っている事を紹介します。

## お願い。教えて下さい。

6 月 11 日の公開講演会出欠のハガキに下野国分寺局の消印で住所変更の記載がありました。生憎、お名前や会員番号などの情報がありません。住所は

**329-0432 下野市仁良川 1425-1 26 街区 8**

です。直接現地を訪ねて該当の方を探しましたが、新しく開発された地区のようで、新しく移ってきた人が多く正確な情報が得られませんでした。

心当たりの有る方は、支部長までご一報ください。

今回の返信ハガキには参加される方のお名前と連絡先を記入して頂きましたが、欠席の方にはその様な情報の記載は特に書いていなかった為に起こった事だと思えます。今後同じ様なことの無いように気を付けたいと思えます。

今後とも宜しくお願いします。